

東白日報

発行・販売元/ 株式会社 白報社

福島県東白川郡棚倉町字南町162

☎/0247-33-2819 FAX/0247-33-6508

mail nipou@cello.ocn.ne.jp

経産牛の肉ブランド化

鮫川村が東京の業者と協定

産業振興と関係人口創出

鮫川村と、リファインホールディングス（本社・東京）は、「経産牛」の活用をメーンにした連携協定

を結んだ。二十五日、村役場で締結式があり、宗田雅之村長と同社の川瀬泰人社長が協定書を交わした。



経産牛は子牛を生んだことのある雌牛。食肉としては「肉が固い」などの理由で、役目を終えた後は、ペットフードなどに利用されることが多い。村は経産牛を「未利用資源」として活用し、消費者に好まれる食肉として売り出せるよう、調査研究を進める。将来的には鮫川のブランド牛化を目指すという。飼料としておからを使うことも視野に入れるなど、未利用資源を生かし産業振興

と地域活性を図っていく考え。このほか、「まめで達者な村づくり」やバイオマスヴィレッジ構想、オーガニックヴィレッジ構想の実現、地域産業を支える人材育成と関係人口創出に関する協定内容に盛り込んでいる。

リファインホールディングスは環境保全を考え、天然資源を生かした事業に協

力する事業などを展開している。自治体との協定締結は初めてという。

宗田村長は「力添えをいただきながら畜産業の推進、振興を図りたい」、川瀬社長は「さまざまな形で協力したい」とあいさつした。締結式にはアドバイザーとして、會田充茂県南農林事務所長が立ち会った。